

『トンボの眼』



〒234-0051 横浜市港南区日野8-16-3-104『トンボの眼』編集室 TEL 090-1706-6024 FAX 045-846-9781

発行所:『トンボの眼』編集室

Mailtonbo-sasaki@ybb.ne.jp

発行人: 佐々木 章

<http://www.tonbonome.net/>

「特別な2学期」が始まった

おおや通信(66) 2011年8月23日

東北の小学校の夏休みは短く、大谷小学校でもきのう(22日)から2学期が始まりました。始業式では、校長として「よく遊びよく学べ」という夏休みモードから「よく学びよく遊べ」という勉強モードに切り替えましょう、と呼びかけたうえで、子どもたちに「今年の2学期は特別な2学期になりました」という話をしました。

東京電力の原発事故で大量の放射性物質がまき散らされたため、福島県の多くの学校ではグラウンドを使えない状態が続き、親たちが不安と不満を募らせています。そして、夏休みを前に「もうこんな状態には耐えられない」と、子どもを県内外に避難させる決断をした親がたくさん出てきました。「原発疎開」に拍車がかかっているのです。

2学期から山形県内に転校した福島県の生徒は、小学生だけで280人を上回りました。夏休み前に転入した生徒を含めると、山形県内の小学校への転入者は900人を超えます。もちろん、中学生や高校生も来ています。山形県だけでなく、宮城県や茨城県、北関東や首都圏にも、ものすごい数の生徒が転校していききました。

読売新聞福島版によると、原発事故の後、

福島県内でこれまでに転校した小学生と中学生は合計で1万4000人に上り、全体の1割近くに達しています。このうち、同じ福島県内の放射線レベルの低い地域に転校した生徒が4割、残りの6割は県外への疎開です。

始業式の校長あいさつで、私は「この100年間で日本の子どもたちが危ないところからたくさん逃げ出したのは2回しかありません。先のアジア太平洋戦争の時、空から爆弾が降ってくる空襲から逃れるための疎開と、今回の原発事故による疎開の2回です。危険なところから危険でないところに移ること、それを疎開と言います。3月の大震災とそれに続く原発事故によって、そうした疎開が始まり、2学期から新しい学校に移る生徒がたくさん出てしまったのです。今年の2学期は『特別な2学期』になりました。そのことを胸に刻んでおきましょう」と述べました。

続けて「多数の日本人が放射能の被害を受けるのはこれが3回目です」とも説明しました。「1回目は8月6日の広島への原爆投下、2回目は8月9日の長崎への原爆投下。そして、3回目が今回の福島原発事故による被害です。そのことも、よく覚えておきましょう」と結びました。

2学期の始業式の校長あいさつとしては、異例の長いあいさつでしたが、生徒たちは静かに聞いていました。子どもなりに、なにかとて

つもないことが起きていることを感じているのだと思います。

疎開というのは本来、都会から人の少ない田舎に移動することを表現する言葉のようですが、私はあえて「原発疎開」という言葉を使いたい。ほかの言葉が思い浮かばないからです。疎開する生徒もつらいし、残る生徒もつらい。福島県では、なんとも切ない状況が続いています。「日本の原子力発電所では大きな事故など起こり得ない。クリーンで効率的な電力源です」と唱えて原発建設を推進し、事故への備えを怠ってきた人たちの罪深さをあらためて思います。

秋の味覚の暴落

おおや通信(67) 2011年9月6日

いつもの年なら、秋は農民にとって待ちかねた、胸躍る季節です。春先から流した汗の結晶を手にする季節だからです。けれども、この秋は農民、とりわけ東北の農民にとって、今までに経験したことがないほど憂鬱な季節になってしまいました。福島の原発事故の影響で、果物や野菜の出荷価格が暴落しているからです。

暴落は8月下旬の桃から始まりました。桃の大産地である福島県には例年、桃を買い求める観光客が直売所に押し寄せるのですが、当然のことながら今年はその流れがピタッと止まってしまいました。桃の生産農家はやむなく、青果市場に出荷しましたが、これまた当然のように買ったたかれ、出荷価格は例年の半分以上、日によっては10分の1まで下がってしまった、と聞きました。

市場に桃があふれた結果、やはり桃の産地である山梨や山形の桃の出荷価格も暴落しま

した。山形の生産農家は「福島の農家には投げ売りのような出荷をやめて欲しい」と嘆くのですが、そうもいかない事情があります。福島の生産農家にしてみれば、実際に出荷して売上传票を手にしなければ、東京電力に事故による損害賠償を請求する根拠が得られないからです。「暴落」を示す出荷伝票をもとに「これだけの損害を被った」と主張するしかないのです。

9月に入り、福島産の桃の出荷が終わったため、桃の値段は例年近くまで戻ったそうですが、山形県の農協関係者は「これから梨の出荷が始まる。続いてブドウ、リンゴ、米の出荷も始まる。すべての作物で桃と同じことが繰り返されるのではないか。暴落がどの範囲まで広がるのか予想もつかない」と顔を曇らせています。酪農だけでなく、野菜栽培や稲作への打撃もきわめて深刻です。

憂鬱な秋が「今年限り」ならば、まだ「なんとか乗り切っていこう」という元気も出るでしょう。しかし、放射性物質による汚染の影響が何年続くのか、汚染のレベルが低くなったとしても風評被害は収まるのか、答えられる人は誰もいません。なにせ、4基もの原発がこれほど長期にわたって放射性物質をまき散らした前例はないのですから。

なんと罪深い事故であることか。原発の安全神話を唱えてきた政治家と官僚、電力業界、研究者たちの無責任さにあらためて強い怒りを覚えます。そして、自分を含めて原子力発電が持つ可能性と危険性を冷静にバランス良く伝えることができなかったメディアも、その責めから逃れることはできません。

バラ色の夢を語る者には注意せよ——昔からそう言われてきたのに、なぜ同じような過ちを繰り返してしまうのか。人はついに歴史から学ぶことができないのか。秋雲がたなびき始

めた空を見上げながら、考え込んでいます。
※山形県で小学校の校長をしている元新聞

記者が発信しているメールマガジン「おおよ通信」の転載です。

東日本大震災チャリティーシンポジウム

世界遺産平泉に学ぶ —世界遺産と都市—

期日： 10月23日(日)10:00~16:30

会場： 東京国立博物館 平成館講堂

聴講： 無料

1972年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」いわゆる「世界遺産条約」は、来年で採択40年を迎える。また、世界遺産一覧表に登録された物件は1000件に達しようとしている。この条約を1992年に批准し締約国となった日本でも、今年、岩手県の「平泉」と小笠原諸島が登録され、世界遺産一覧表に記載された日本の資産は16となった。

本シンポジウムでは、岩手・平泉の取り組みを軸に、日本における世界遺産登録の課題や展望、および世界遺産条約の将来について検討する。

基調講演「世界遺産と日本」

講師 近藤誠一 文化庁長官

資産紹介 映像により、平泉を解説

講演 「東北復興の光、世界遺産平泉」

講師 大矢邦宣 平泉文化遺産センター館長

問題提起「世界遺産登録の課題～都市との関わりの中なかで」

講師 青柳正規 国立西洋美術館館長

資産紹介 映像により、国立西洋美術館、鎌倉、百舌鳥・古市古墳群を解説

公開討論「世界遺産と都市」

パネリス ト 青柳正規(国立西洋美術館館長)、大矢邦宣(平泉文化遺産センター長)、岡田保良(国士舘大学教授)、佐藤 信(東京大学大学院教授)、宗田好史(京都府立大学准教授)

コーディネーター 毛利和雄(NHK解説委員)

◆お申し込み方法

名前、連絡先(電話番号・FAX番号・E-mailアドレス)をご記入の上、10月13日(木)までに事務局までE-mailまたはFAXにて。(定員400名)

[送付先]

世界遺産シンポジウム実行委員会事務局

E-mail : wh111023@gmail.com

Fax : 03-3823-4867

[問い合わせ]

Tel : 03-5215-5516



世界遺産と都市
平泉に学ぶ

2011年10月23日(日) 10:00~16:30 聴講無料
東京国立博物館 平成館講堂

【伊勢中川】 伊勢中川で発見された、平泉時代の遺物(複製品等)・FAX 番号・E-mailアドレスをご記入の上、10月13日(日本郵政での発送)まで、〒100-8701 東京都千代田区千代田1-10-11 東京国立博物館 平成館 企画課までお送りください。E-mail: info@nhm.ac.jp

【お問い合わせ】 Tel: 03-6211-5516

主 幹: 世界遺産センター/企画課 伊藤 真由美
協 賛: 東京国立博物館/平成館 企画課 伊藤 真由美
後 援: 世界遺産センター/企画課 伊藤 真由美

東日本大震災チャリティ・シンポジウム

世界遺産・平泉に学ぶ

—世界遺産と都市—

1992年、ユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(以下条約「世界遺産条約」)は、発効と採択 40 年を迎え、また、世界遺産一覧表に登録された物件は 1000 件に達しようとしている。この条約が 1992 年に発効された日本でも、今年、世界遺産「平泉」と小豆島が登録された。世界遺産一覧表に登録された日本の遺産は 16 点となった。このシンポジウムでは、世界遺産の紹介と並行して、日本における世界遺産登録の経緯や課題、および世界遺産登録の意義について検討する。

2011年10月23日(日)

10:00~16:30 聴講無料
東京国立博物館 平成館講堂

【参加申込】
参加費は無料です。お申し込みは無料。【申込番号】申込書に E-mailアドレス、お名前(姓・名)を記入の上、10月13日(土)まで事務局まで E-mail または FAX でお申し込みください。(送付先住所)【お問い合わせ】
世界遺産センター/企画課 伊藤 真由美
E-mail: info@nhm.ac.jp Tel: 03-6211-5516
FAX: 03-6211-5516

【交通情報】
会場は、東京都千代田区千代田1-10-11 東京国立博物館 平成館講堂です。最寄り駅は丸の内線千代田駅。千代田線千代田駅下車徒歩15分。バスは丸の内線千代田駅西口から徒歩15分。



パネリスト・講師プロフィール

- 近藤 賢一** (ばんどう けんいち)
文芸評論家。1948年東京都生まれ。東京大学、河内大学を経て、1979年早稲田大学。同大学文学部助教授、1983年同大学文学部助教授。1987年同大学文学部助教授。1991年同大学文学部助教授。1995年同大学文学部助教授。1999年同大学文学部助教授。2003年同大学文学部助教授。2007年同大学文学部助教授。2011年同大学文学部助教授。
- 太田 邦彦** (おのた くにひこ)
東京大学文学部助教授。1948年東京都生まれ。東京大学、河内大学を経て、1979年早稲田大学。同大学文学部助教授、1983年同大学文学部助教授。1987年同大学文学部助教授。1991年同大学文学部助教授。1995年同大学文学部助教授。1999年同大学文学部助教授。2003年同大学文学部助教授。2007年同大学文学部助教授。2011年同大学文学部助教授。
- 青柳 正隆** (あおやなぎ しょうりゅう)
東京大学文学部助教授。1948年東京都生まれ。東京大学、河内大学を経て、1979年早稲田大学。同大学文学部助教授、1983年同大学文学部助教授。1987年同大学文学部助教授。1991年同大学文学部助教授。1995年同大学文学部助教授。1999年同大学文学部助教授。2003年同大学文学部助教授。2007年同大学文学部助教授。2011年同大学文学部助教授。
- 岡田 保彦** (おかだ やすひこ)
東京大学文学部助教授。1948年東京都生まれ。東京大学、河内大学を経て、1979年早稲田大学。同大学文学部助教授、1983年同大学文学部助教授。1987年同大学文学部助教授。1991年同大学文学部助教授。1995年同大学文学部助教授。1999年同大学文学部助教授。2003年同大学文学部助教授。2007年同大学文学部助教授。2011年同大学文学部助教授。
- 佐藤 隆** (さとう たか)
東京大学文学部助教授。1948年東京都生まれ。東京大学、河内大学を経て、1979年早稲田大学。同大学文学部助教授、1983年同大学文学部助教授。1987年同大学文学部助教授。1991年同大学文学部助教授。1995年同大学文学部助教授。1999年同大学文学部助教授。2003年同大学文学部助教授。2007年同大学文学部助教授。2011年同大学文学部助教授。
- 宮内 好史** (みやうち よしあき)
東京大学文学部助教授。1948年東京都生まれ。東京大学、河内大学を経て、1979年早稲田大学。同大学文学部助教授、1983年同大学文学部助教授。1987年同大学文学部助教授。1991年同大学文学部助教授。1995年同大学文学部助教授。1999年同大学文学部助教授。2003年同大学文学部助教授。2007年同大学文学部助教授。2011年同大学文学部助教授。
- 寺岡 龍雄** (てらおか りゅうお)
東京大学文学部助教授。1948年東京都生まれ。東京大学、河内大学を経て、1979年早稲田大学。同大学文学部助教授、1983年同大学文学部助教授。1987年同大学文学部助教授。1991年同大学文学部助教授。1995年同大学文学部助教授。1999年同大学文学部助教授。2003年同大学文学部助教授。2007年同大学文学部助教授。2011年同大学文学部助教授。

奥松島縄文村再生プロジェクト
—蕎麦で里浜の再生を—

あの大震災からはや5ヶ月が経ちました。里山貝塚は今、夏草に覆われ、ミンミンゼミの蝉時雨のなかで、なに事も無かったかのようにおだやかです。しかし、3月11の爪痕は、この5ヶ月という時間を経てもなお、深く深く刻まれています。

里浜貝塚があります宮戸(みやと)島では太平洋に面した大浜、月浜、室浜の3つの集落は壊滅してしまいました。里浜も地震そのもので大きな被害を受けていますが、津波被害は内湾に面していたことから比較的軽く済みました。宮戸の人達は先人の教えを良く守り、地震の後、いち早く宮戸小学校など高台に避難したとのこと。縄文人が里浜の地を選んで生活したというのも地震・津波とは無関係ではなかったのでしょう。

さて、東松島市奥松島縄文村歴史資料館で

は、例年、里浜貝塚ファンクラブを通して春の牡蠣養殖体験、潮干狩りから貝染め、土器作り、塩作り、縄文の釣り、縄文講座、蕎麦打ち体験など、年間を通して様々なイベントを行い、皆様に縄文を発信すると共に、一緒に縄文を楽しみ、体験するイベントを重ねて参りました。

しかし、この震災で、今なお行方不明者が100人を越え、甚大な被害を受けた東松島市では市民の生活の支援と復旧。復興に手一杯で、とても縄文の文化に触れるような活動を行うゆとりはなく、縄文村歴史資料館の表向きの活動はすべて中止となりました。資料館では文化財レスキュー事業として少しずつ展示品の清掃などを進めてはいますが、未だ再開の目処は立っていません。その一方で、全国の皆さんからは何とか奥松島の、宮戸島の、そして里浜の手助けができないものか、との暑い声も数多く寄せられています。

蕎麦は例年ですと東松島市の予算で(社)東

松島市シルバー人材センターに委託して夏に種をまき、秋に収穫してもらい、それを使って蕎麦打ち体験教室を 行ったりしてきました。しかし、市には例年の予算をここに回すゆとりは全くありませんので、今年は昨年秋に植えた菜種の収穫は行ったものの、その後、史跡公園の畑は夏草の生い茂るがままとなっています。

そうした中で、奥松島の、里浜の再生につながるイベントを地元、縄文資料館と手を携えて行えないかと言うことで、このたび、「蕎麦で里浜の再生を」プロジェクトを行うこととしました。

このプロジェクトでは例年市からの予算でまかなってきた経費をすべて皆様からの浄財でまかないたいと思います。種まき前の畑お越しから始まって収穫、蕎麦の粉牽きまでの全部の経費を 50 万円と見積もりまして、この 50 万円を目標に皆様からのご寄付を是非とも御願ひ申し上げます。また、種まき祭、収穫祭などのイベントにもふるってご参加下さいますよう、重ねてご案内申し上げます。

2011 年 8 月 15 日
奥松島縄文再生プロジェクト実行委員会
代表 岡村道雄

実行委員会事務局
〒890-0862 仙台市青葉区川内 12-2
東北大学植物園 鈴木三男
電話 & FAX 022-795-6788
メール mitsuos@m.tohoku.ac.jp

(不在がちですので出来る限りメールをご利用下さい)

プロジェクトのあらましとイベント

東松島市のシルバーの方々もこのところようやくがれきの撤去や家の片付けなど以外の事をする時間が少し持てるようになってきたそうですので、例年通り、蕎麦の作付けから収穫までの作業を(社)東松島市ディルバー人材セ

ンターに委託して行っていただきます。

- ・作付け場所 : 里浜貝塚史跡公園内の畑および台囲地区にある里浜のシンボルのタブノキの周囲
- ・イベント 1 蕎麦種まき祭り(9 月 4 日)
- ・イベント 2 蕎麦収穫祭り(11 月 20 日)
- ・イベント 3 里浜蕎麦を味わう会(1 月予定、蕎麦打ち体験教室など企画立案中)

寄付金のご送金

1 口 1,000 円(何口でも結構です)

この寄付金は種まき前の畑お越しから始まって、タネ代、草刈り、収穫、その後の畑整理、蕎麦の粉牽きまでの経費とこれらの事業を皆様にお知らせ、報告するための通信費などすべてあてられます。

送金先: 郵便振替口座

口座記号: 02210-9-126202

口座名:

里浜再生プロジェクト実行委員会



ようやく秋の気配がしてきましたが、いかがおすごでしょうか。

私は、3・11 の三陸大津波以来、宮戸島の自

然と歴史などを活かした復興を考え、一方で故郷・上越高田で北陸新幹線駅前で忽然と現れた釜蓋遺跡(弥生末環濠集落)の史跡整備に伴う発掘を目一杯手伝っています。

さて、このたび鈴木三男さんが呼びかけ、佐藤隆志(里浜貝塚ファンクラブ、縄文村村長)・近藤二郎(早稲田大学教授)、永六輔(作家)・中山千夏(作家)・佐古和枝(関西外国語大学教授)・白井貴子(シンガーソングライター)・苅谷俊介さん(俳優)ら(編集部注・以上の

方々は実行委員会委員メンバーです)が支援してくれることになった宮戸島の復興「蕎麦で里浜の再生を」が立ち上がりなんとか蕎麦を手始めに前に進もうと、蕎麦の植え付けを行いました。11月20日には、刈り入れ・収穫も行う、「宮戸島里浜貝塚まつり・蕎麦収穫祭り」もおこなうことを考えています。

是非、参加していただけないでしょうか。

岡村道雄

**東日本大震災復興 美術作品を救おう
美術館に活力を！**

「チャリティーオークション 今日の美術展」

開催日時 : 10月5日(水)～9日(日)

開催場所 : 東京美術倶楽部 3F/4F
(東京都港区新橋 6-19-15)

入場 : 無料

東日本大震災の甚大な被害はいまも社会全体に深い爪痕を残していますが、被災地の人々を中心に復興へ歩みはじめ、全国からその歩みを支えてともに進んでいこうとする支援活動も活発になっています。また大地震で発生した福島県の原子力発電所の事故は、いまだに予断を許さない状態が続き、人々の生活に深刻な影響を与え続けています。直接の被災地、とりわけ大津波に襲われた地域の美術館施設で仕事をしていた学芸員には何人も命を落とされた方々がいらっしゃいます。その方々と膨大な数に上がる亡くなられた方々のご冥福を、心よりお祈りいたします。

こうした状況下で、東北地方、北関東の美術館、博物館施設をはじめ、さまざまな場で保存

されてきた文化財、美術品も数々の被害を蒙り、美術館活動にも大きな支障が出ています。現在、文化庁が主導する「文化財レスキュー事業」が実施され全国美術館会議もその一翼を担い、多くの学芸員が美術作品をはじめとする文化財の救出修復に当たっています。

緊急の対処を必要とする美術作品の救出修復のみならず、このたびの大震災と原発事故の影響は、今後長い間、さまざまな形で美術館活動に及ぶものと考えざるを得ません。全国360館余りの国公立美術館が参加する全国美術館会議は、今回の事態を美術館全体の危機、さらには美術そのものの危機と捉え、被害を受けた美術作品、美術館施設への対処、展覧会の中止や予算の大幅な削減によって停滞する美術館活動の回復をはからなければならないと考えています。

その一環として、全国美術館会議、全国美術商連合会、文化庁および関係団体と新聞、放送各社の共催後援により、「東日本大震災復興チャリティー・オークション 今日の美術展」を開催し、そこに寄せられた義捐の志を、美術作品の救済、美術館活動の十分な維持のために資するよう目指しています。いま被災地では、生活の復興、社会機能の回復に迫

られています、ほどなく美術の豊かな力が
必要になっていくと確信しております。

上記の趣旨にご賛同をいただきました約 400
人の作家の方々から無償で作品を提供いた
だき、オークションにより得た収益を震災の被
害を受けた東北、北関 東の美術館が所蔵す
る美術作品の救済とそれらの美術館の今後
の活動を支援するための義捐金として活用さ
せていただきます。(開催趣旨より)



■ 本展は、美術の分野で活躍している多くの
画家、彫刻家、工芸家、写真家等に当該展覧
会への作品提供を依頼し、当該作品の展覧を
行うと共に入札を実施し、その純益金を、東
日本大震災で被災した地域における美術品・
展示施設の修復・修理、展示・教育普及活動
の支援等に供するために開催します。

戦災からよみがえったテル・ハラフの彫刻群

穴澤味光



彫刻の碎片と復元の過程

6 月末からバルト海クルーズに行ってきました。
今度のクルーズでは一般の乗客とは異なり、
自分のペースで寄港地の博物館見学を主な
目的にして 2 週間できわめて多くのモノを観て
画像におさめてきました。

その中で強く印象に残ったのは、ベルリン
(ロストックの外港ヴァーネムンデから往復
13 時間のシャトルバス、ベルリン自由行動ツ
アー)で有名なペルガモン博物館を見てきたこ
とです。

ペルガモン博物館は、ご存知のように、20 世

紀初頭のドイツ帝国最盛期に、ドイツがトルコや中近東で発掘した古代遺跡の一部をそっくりそのままベルリンに解体移動し、博物館内に再現した壮大な施設で、その目玉は「ペルガモンのゼウスの大祭壇」「ミレトスの市場門」「バビロンのイシュタール門」などですが、館内には特別展の会場もあります。

出発前からドイツの考古学や歴史の雑誌で知っていたのですが、この博物館ではちょうど、第二次世界大戦の戦災で粉々に破壊されたベルリンの旧テル・ハラフ博物館の石造彫刻群を7年かけて整理復原したという、文化財復旧の一大プロジェクトの成果を公開する特別展をやっていました。それを見るのも大きな目的でした。

テル・ハラフはトルコ国境に近い北シリアにある遺丘で、1899年、ドイツ帝国が建設を企画していたバグタット鉄道の予定地を調査していたドイツの民間オリエンタリストのマックスフォン オッペンハイム(1860-1946)によって発見された。テルに石造彫刻で飾った古代都市が埋もれていることを知ったオッペンハイムは、父が富裕な銀行家だったので、政府の援助なしで発掘調査を計画、第一次大戦勃発前年まで調査がおこなわれた。この遺跡は下層が彩色土器をともなう新石器時代(「ハラフ期」の名前で学界に周知)、上層が前10-8世紀の小王国グザナの遺跡。グザナは続ヒッタイト文化の影響を受けたアラム人の王国で、その宮殿や神殿は多くの神像、聖獣、神鳥、人物などの石造彫刻で飾られており、第一次大戦後、それらは折半して一部はダマスカスの博物館におさめ、一部はベルリンに運ばれた。オッペンハイムはこれをベルガモン博物館の中にある近東博物館に展示保存してもらう希望だったが、オッペンハイム個人の財政問題が障害になり、交渉が進まず、一時的な

展示施設として、市内シャロテンブルグにある工科大学の元付属工場建物の提供をうけ、1930年に『テル・ハラフ博物館』を開館。西欧やアラブ世界の有名人の来館者も多く、グザナ王カバラの宮殿玄関を復元した大胆な展示とあいまってベルリンの名所になった。第二次大戦が始まると国立博物館の可動重要展示品は安全な場所に疎開されたが、テル・ハラフ博物館は私立なので疎開ができなかった。



オッペンハイムが「我がビーナス」と呼んだ女性像の再現

1943年11月23日、『テル・ハラフ博物館』は英国空軍のベルリン爆撃でついに炎上した。元工場で、ベルガモン博物館のような不燃性建築でないの で、屋根のタールや床の油脂製品が引火して全焼した。小さな遺物や石灰岩製の遺物や石膏のレプリカ類は全滅、大きな石造彫刻群は主に硬質の砂岩製だったので、その多くは猛火に耐えたとみられる。ところが建物は翌日もまだ燃えていたため、消防隊がやってきてホースで放水、これが災厄を引き起こした。放水によってまだ高温状態の石造彫刻はかえって亀裂を生じて割れ、粉々に砕け散ってしまった。

被災後、粉々に砕けた彫刻群と瓦礫トラック9台分を焼け跡から回収、ベルガモン博物館の地下室に搬入された。オッペンハイムは戦災に屈せず、時期をみてこれらの碎片を再修復して研究公開することを計画していたが、自分の住居すらも2度も戦災に会い、すべて

を失いドイツ敗戦の翌年亡くなった。

テル・ハラフの被災彫刻群の碎片はベルリンがソ連軍に占領され、戦後は分割され東ベルリンに位置したため、50年ちかくそのまま放置され、ドイツ統一後にその修復計画がはじめて可能になった。オープンハイムの設立した基金の援助で、ペルガモン博物館内の古代近東博物館が整理にのりだした。



聖なる鳥の彫刻

これは、巨大規模の三次元のジグソーパズルであった。碎片の数は27000片、写真記録のある彫刻の表面部分の破片だけでなく、内部の芯の部分も多数の碎片にわれ、それが熱によって変色、伸縮、変形しており、表面には火災による煤、タール、焼夷弾の燐などが付着汚染しているため、接合が容易ではない。熱による変形で、接合面がぴったりと合わないことが多い。コンピューターによる登録は芯の部分の石材の接合関係の推定には有効ではないので、表面部分の破片のみをカタログに登録し、あとは実際に手作業で少しずつ接合できる碎片をつなぎあわせることから復原をはじめた。こまったことには、戦前の遺物の写

真は、いづれも表側から撮影した画像に限られていて、ふだんは見えない裏側の写真がない場合が多いため、必要な情報が制限されていることだったという。

こうして実に回収された碎片の95%が復原に成功、戦前の写真に較べると亀裂がはいり、歪み、変色し、一部が欠損するなど痛々しい状態ではあるが、ともかくもテル・ハラフの石造遺物群の大半は復活した。ただし、碎片の5%はどうにも接合すべき関係がわからず、そのままになっている。

これにつけても感心させられるのは、発掘者オープンハイムの決してヘコタレないネアカな人格と、不撓不屈の精神だった。彼の父は銀行家、帝政ドイツで男爵を授かり、カソリックになったがユダヤ人だった。そのため、オープンハイムは、ドイツ有数のアラブ通だったのに、帝政時代には正規の官途にはつけない冷遇され、インフレで預金を失い、ナチ時代には困難な立場にたたされ、2度の戦災ですべてを失ったが、決して希望を捨てず、死ぬまで研究計画を語っていた。彼の生涯の座右銘は「頭をあげろ、もっと元気をだせ、もっとユーモアを持って・・・」だったという。

東日本大震災で多くの文化財の被害を受け、損害からまだ完全に立ち直れてはいない東北の我々を勇気づけるような展覧会でした。

寄稿「ミャンマーの基壇遺跡・ミングオン大仏塔」

—ミャンマーのマカラ(摩竭魚)その2—

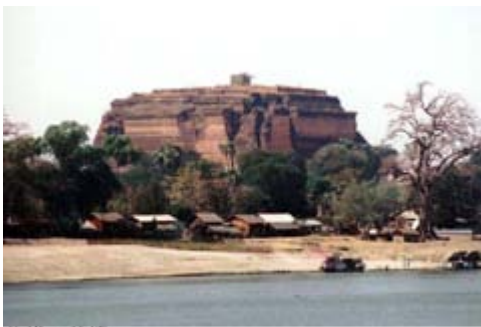
大西 竹二郎

バガンから国内線でマンダレーへ飛んだ。マンダレーはヤンゴンに次ぐ、ミャンマー第2の大都市だ。探訪先は、そのマンダレーの旧王都や遺跡、寺院などではなく、さらに、そこから約10キロほど北に位置するミングオンという

地方集落だ。陸路で行くには不便なところのようで、私達はマンダレーの埠頭からチャーターした中型の渡し船に乗り、エーヤワディー川を北上した。一般の渡し船もあるのだが、外国人は利用出来ない。船上から川沿いの台地上に建つ白色や黄金色のパゴダを遠望し、川辺で洗い物をしている女性や水浴びをしている子どもたちに手を振ったりして、40分程経過していたのだろうか、突然、左手前方に巨大な岩山が見えてきた(写真1)。



球状に細工された部分



仏塔の基壇



ふたつの大きな岩塊

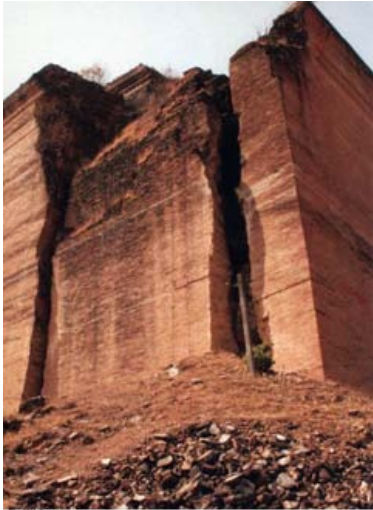
ミングオンの船着き場は砂浜で、板を伝わって、怖々と降りる私達を村の子供達や水牛の荷車が出迎えてくれた。素朴な寒村といった印象だ。砂浜を奥に向かって歩いて行くと、2つの大きな岩の塊が見えてきた(写真2)。近寄ってみたら、どうも自然の岩ではなさそうだ。一周しながら観察したら、ボール球のように丸くなっていて、禪のように盛り上がった線條の細工がなされ、僅かだが漆喰の文様も残っていた(写真3)。

私達は先を急いだ。あの巨大な岩山に早く近付きたかったからだ。そして、岩山の真下に着いた時、「なんだこれは！」と思わず息を飲んだ(写真4)。子供の頃、東京の丸ビルを見上げて、「わあ、高い！」と驚いたことがあるが、そんな比ではない。まるで、石切り場で最後に残されてしまった四角い岩塊のようだ。しかし、垂直に切り立つ茶褐色の壁面は、鑿で打たれた荒削りのものではなく、滑らかな平面になっている。その平面を望遠レンズで覗いてみたら、どうやら、レンガの積み重ねからなっているようだ。そして、壁面入り口にはバガンなどでもよく見掛けたマカラからイメージされた門の造形が四面に見られたので、仏塔の台形基壇であることが徐々に納得された。

然らば、なぜ、塔身が、その欠けらすら、見当たらないのだろうか。その辺のことになる、リーダーの助けを借りなければならなくなる。



基壇全景



亀裂部分

ビルマ族の王朝は、11世紀より13世紀まで続いた最初のバガン王朝を第一次に、その後、タウングー王朝が16世紀より18世紀まで、第二次ビルマ帝国として続いた。そして、18世紀より19世紀にかけてアラウンパヤー王朝が第三次ビルマ帝国として栄えた。そのアラウンパヤー王朝5代目のボードーパヤー王(在位1782~1819年)の治世に、中国清代の高宗より、釈尊の歯一本が使節団によってもたらされた。そこで、ボードーパヤー王はエーヤワディー河に住居を構え、大仏塔の建設に取り掛かったのだそうだ。1790年のことで、日本では徳川家斉の治世に当たる。

そして、9年後の1799年に、不幸なことに、王は基壇が積み上がったところで逝去されてしまったのだ。アラウンパヤー王朝は10代まで続いたのだが、その後の王様達が大仏塔の完成を引き継ごうとした話は伝わっていない。9年間掛けて、レンガのブロックを隙間なく積み上げ、これだけ巨大な台形基壇を造るのには一体、幾つのブロックと人力を必要としたのだろうか。財政への圧迫は計り知れず、次世王達も放置せざるを得なかったのではないだろうか。そして、7代目のターラーワディー王の治世、1839年に大地震が起こり、未完の台形基壇に大きな亀裂が入ってしまった

(写真5)。あの2つのボール球のように見えた塊も、この時の地震で頭部が落ちた獅子岩であったようだ。臀部の丸みや尾の細工から見て、この獅子岩もすべてレンガブロックの積み重ねで造形されていたとみられている。



マカラ造形の配水管

私は基壇底辺部を一周してみた。さして高くない三層のレンガ積みから成っていて、そこにマカラ造形の排水管がずらり並んでいた(写真6)。これだけは石材からなっているように見えた。細長い顔に、剥き出した牙や歯を強調した素朴で土臭いマカラであった。

この巨大な基壇跡は一般に「ミングオン大仏塔」と呼ばれている。その北隣りに、シンビューメ・パゴダが建っている(写真7)。ボードーパヤー王の跡を継いだ6代目のバジードー王(在位1819~37年)が、まだ、王子であった1816年に、他界した夫人シンビューメを悼んで建てたのだそうだ。この造形はスメール山(須弥山)を模したといわれ、スメール山の山並みを波状の手摺で表現し、すべてを純白色に仕上げたユニークな造りは、ミャンマーの仏塔の中でも異色な建造物として評価されている。

ミングオンで出会った巨大で荒々しい茶褐色の基壇遺跡、それとは全く対照的な純白のシンビューメ・パゴダを前にした私は、日光の男体山と女峰山ではないが、なぜか、山や峰、岩に性別の名前を冠して、信仰する習俗が日本はもとより韓国やモンゴルにも見られること

が思い出された。巨大な基壇上の塔身部分だけでも高さ 150 メートルのものが予定されていたと言われている。実現していたら、「ミングオン大仏塔」はミャンマー最大級の仏塔になっていたことは確かで、男峰のスメール山(須弥山)として、シンビューメ・パゴダと並び建っていたのではないかと惜しまれる。



ミンビューメ・パゴダ

(写真 大西竹二郎)

写真レポート「写真が語る北朝鮮(上)」

写真撮影 吉野晃司 ● がらす工房 彩硝房



1-1)ピョンヤン空港



1-2)ピョンヤン空港・駐車場



1-3)羊角島国際ホテルロビー



2-1)羊角島ホテル朝食バイキング



2-2)朝食バイキング



3-1)婦人ピョンヤン市内交通警官 1



3-2)婦人ピョンヤン市内交通警官 2



3-3)婦人ピョンヤン市内交通警官 3



4-1)大成山遊園地入り口風景



4-2)トラック



4-3)大成山に来た人



5-1)高層マンションと路面バス



5-2)カラオケ



5-3)朝鮮式民泊ホテル



5-4)立ち往生のバス



6-1)野外売店



6-2)リンゴ・梨



6-3)交通量0?

1-1) 北京から緊張の面持ちで下り立ったピョンヤン空港ではキム・イルソンの写真がお出迎え。

1-2) ピョンヤン空港駐車場に駐車していた送迎車は全て高級外車。

1-3) 大同江中洲にある外国人専用ホテル・羊角島国際のロビーは外国人観光客でごったがえしていた。

2-1、2-2)

ホテルの外国人専用レストランではバイキング式の朝食。レストランは2か所、一方は白人と我々日本人グループ、もう1つのレストランは中国人グループというように分けられていた。

3-1、3-2、3-3)

ピョンヤン市内の主な交差点では美人の婦人警察官が交通整理をしていた。皆さん非常に厚化粧でした…?

4-1、4-2、4-3)

5月1日は北朝鮮では国民的休日のために大成山遊園地に多くの人が遊びに来ていた。町からは電車で、農村部から来た人々はトラクターやトラックの荷台に乗ってやって来ていました。

5-1) ピョンヤン中心地と郊外の高層マンション住宅地への交通手段として2両連結の路面電車が道の両側を走っていました。

5-2) 昼食をしたレストランで給仕をしてくれた

女の娘たちが昼食後、サービスとしてアリラン、トラジといった民謡を歌ってくれた。もちろんその前にキム・イルソン総統を讃える歌が謳われた。

5-3) 開城(ケソン)で泊まった朝鮮式民泊ホテルは、朝鮮時代の両班の屋敷を使用している宿で、小川を挟み雰囲気は最高でしたが、夜 10 時から朝 8 時 30 分まで停電のため真っ暗。トイレに行くのにも困りました。

5-4) 農道でバスの屋根に電線が引っかかってしまって立ち往生。電線が裸線のためショートする恐れがあるので、そこに徳興里古墳が

あるのに、それ以上進めず歩くはめになりました。

6-1、6-2、6-3)

開城ーピョンヤンの帰路間往復の高速道路でトイレ休憩をしたパーキング。往路にはみかけなかった野売店が帰路には開店。綺麗な女子職員がリンゴ、梨などの果物や土産物を販売していました。もちろん胸にはキム・イルソンバッチをつけて。でも高速道路では我々の車以外に車が走っている光景は見かけなかったのですが。

花火 慰霊と鎮魂のため打ち上げ

佐々木 章

風化にあらがう不忘

8 月 16 日の朝日新聞・天声人語に「終戦の日のきのう、靖国神社から千鳥ヶ淵戦没者墓苑までを歩いた。炎天下、結構目立つのは若い世代の姿だ。逆に、戦場を体経した世代とおぼしき高齢は随分と減っている。戦後 66 年。時はただ、過ぎに過ぎる。▼…この日は、近くの日本武道館であった全国戦没者追悼式に戦没将校の妻馬場宮子さんが 97 歳の最高齢で参列した。その「妻」も、20 年前は参列者の 4 割を占めていたのに今年は 1%に満たない。▼やはり時の流れだろうか。おとといの朝日歌壇にも戦争詠は意外に少なかった。夏八月には毎年、鎮魂、追想の歌が湧くように詠まれて戦後世代の胸も突いたものだ。詠み手の多くは父母、妻や恋人、きょうだいたちだった。▼たとえば<出撃のせまりし君が文面にはじめて吾が名呼び捨ててありき>…痛哭、哀切を当事者として語りうる人は減りつつある▼「人の世の不条理や真は、死と涙を強いられた人の心にこそ秘められている」は戦争の

傷跡を撮り続ける写真家江成常夫さんの言だ。東京で開催中の写真展「昭和史のかたち」を見ると、一枚、一枚がこの国の過去と現在を突きつけてくる。▼…風化にあらがう不忘を、不戦とともに胸に置きたい。」とあった。

東日本大震災被災者数

映像を通して押し寄せる津波、東京電力福島第一原発の事故現場映像にくぎ付けになって以来、半年が過ぎ、節電の夏もすぎ、大きな被害をもたらした台風も去り、秋となった。

自分の言葉では言い表せないが、溜まった新聞を拾い読みしながら、この 1 ヶ月を振り返ってみたい。

8 月 16 日、15,698/4,666(放射能 国が除染 特措法成立へ)、8 月 17 日、15,700/4,659(岩手の養殖 激減へ 揺れた送り火 復興を祈って)、8 月 18 日、15,703/4,647(甲状腺被爆 子どもの 45%、23 人乗船 川下り転覆)、…9 月 3 日、15,757/4,382(党内融和配慮 野田内閣発足)、9 月 5 日、15,763/4,2829(台風 21 人死亡 55 人不明 紀伊半島土砂崩れや氾濫)、9 月 7 日、15,769/4,227(放射能 学ぶ時 教育あしたへ 今こそ子どもの

ために)、9月9日 15,776/4,225(被災地 3.6 万人転出超過 岩手・宮城・福島 8 万人県外へ なでしこ五輪切符)、9月11日、15,781/4,086(鉢呂経産相辞任 不適切発言で引責震災きょう半年 不明なお 4 千人 避難所に 6 千人以上)、9月15日、15,787/4,059(福島土除染 1 億立方メートル 最大値を試算 県面積の 7 分の 1)

日時のアとの 00,000/0,000 は警察庁発表の東日本大震災被災者の人数で死亡者数/行方不明者数で、()内は朝日新聞朝刊 1 面に載った日々のニュースの見出しです。被害による避難者数は 9 月 8 日政府発表では 74,900 人となっている。

様々な事象が日々、生じていくであろうとしても現在、そして、将来 20 年、30 年までも決してその記憶が消えることが無いであろう日本を襲った未曾有の惨事—東日本大震災、東京電力福島第一原発事故、天声人語氏に見習うなら、時はただ、過ぎに過ぎる。…「被災者の悲しみ・事故の巨大さ」の風化にあらがう不忘を胸に置きたい。

京都の「五山送り火」

今夏は京都の夜空を焦がす「五山送り火」で大震災の津波でなぎ倒された岩手県陸前高田市の名勝「高田松原」の松でできた薪を使う計画が二転、三転、結局、使われなかった。被災地の人にもう一度、声を聞いてみよう。「計画を聞き、被災地の私たちは「これで御霊も多くの人に見送られて成仏できるだろう」と喜んでいました。ところが放射能不安から大文字保存会が中止を決定。薪は陸前高田市でお盆の迎え火として燃やされました。この薪は一本一本なたで割り、かんなをかけた後にそれぞれ被災者が追悼の言葉を書き込んだものでした。表皮はほとんどなく、薪というより

角材や木簡に近いものです。だから放射能は検出されませんでした。多くの批判が寄せられ、京都市は急きょ、陸前高田市から新たに薪を取り寄せ、五山送り火で使う計画を立てました。しかし、検査で放射能セシウムが検出されたと中止しました。この薪は最初のものとは違い、表皮もついた薪です。検出は不思議ではありません。わかりきったことであり、私には批判をかわすためのパフォーマンスにしかみえません。…京都市はまたも被災者の心を踏みにじり、風評被害を助長したことを自覚すべきです。岩手県北上市 70—朝日新聞 8 月 19 日「声」欄

9 月 7 日朝日新聞記者有論では、騒動は双方にとって不幸なスタートだったが交流を重ねることで絆にしていけることを示唆していた。

その意味では「被災松、清水寺の仏像に—名勝「高田松原」の松から、京都清水寺の仏像を制作する取り組みが 27 日始まった」として清水寺が大日如来坐像(重要文化財)の複製品の制作を京都伝統工芸大学(京都府南丹)に依頼。同校が被災した松を用い、被災者との「合作」を企画、震災 1 年となる来年 3 月 11 日の完成を目指している(8 月 28 日朝日新聞)。こうした絆づくりあることも紹介していた。風評被害については「九州に持ち込むな」反対メール 15 通 福島応援ショップ中止 福岡(9 月 9 日朝日新聞)といったニュースがありました。

福島の花火

「花火」といえば 7 月初旬に各県ごとに日時、催事名、打ち上げ数、場所など花火見物のガイド記事が掲載される。今年も 7 月初旬にその特集が載っていた。それらを見て各地の花火大会に出かけた人も多かっただろう。しかし今年の花火大会は例年と違って、「夜空

に祈り 復興願う花火 <東北に元気を送りたい>」徳川吉宗の時代、飢饉や疫病で命を落とした人の供養と悪疫払いのため、隅田川で水神祭と川施餓鬼が営まれた。東京・隅田川の花火大会は、これにちなんで打ち上げられた花火の流れをくむ。静岡・安倍川の花火は、太平洋戦争の犠牲者を悼み、平和への願いを込めて始まった。花火は人々の祈りと共に受け継がれてきた行事だ。ことしは、隅田川や安倍川をはじめ、東日本大震災の復興支援や慰霊を掲げる大会も多い。他方、「節電で電車の増発が困難」「他の花火大会の中止で観客の増加が見込まれ、警備が難しい」と中止を余技なくされたものもある。」(7月8日朝日新聞夕刊)

季節は移り、話題も夏の「花火」から秋の「味覚」や「運動会」に代わる時間が流れた。ところが9月半ば過ぎに「福島の花火打ち上げ中止 愛知・日進市民の抗議受け」(9月20日朝日新聞)というニュースが載りました。復興支援がテーマであったはずの花火大会で福島県川俣町産のスターマイン型花火を打ち上げなかったというニュースです。主催者の対応のまずさと被災地への想像力のなさにはあきれられるばかりでした。早速、21日の声欄には「安全な花火なぜ中止するのか—福島県郡山市 58」、そして22日、日進市長が川俣町役場を訪れ「新たな風評被害のご心労をかけ、心からお詫びしたい」と頭を下げたそう。ただ気がかりなのは「できるだけ早い機会に打ち上げることなどを約束した」という事だ。中止したことで大きな反響となり場当たりの約束にしか見えないのだが。被災地の人々の悲しみを慮るのであれば時間がかかっても、たとえ小さな絆であってもそれを重ねることで騒動を絆に転じる。きっと日進市民の中にも全国に知れ渡った汚名を拭きたいと思っている人々もい

るだろう。市民にも十分説明し、来夏、出直して福島県川俣町産のスターマイン型花火を打ち上げたらどうなのだろう。おせっかいな様ですが五山騒動のこともあります。それがパフォーマンスに終わらなければいいがと思いました。

朝日新聞社説「福島の花火知る、から始まる支援」

9月24日に朝日新聞は社説に「福島の花火知る、から始まる支援」と秋ならぬ花火を取り上げた。結論だけを引用するにとどめるが「原発事故被災地への支援は、放射能被害を正しく知ることから始まる。被災地の人たちを、理不尽なことで失望させてはならない」

季節はずれの花火のことと言え、これ以上、食品(肉、米などの農産物、魚など)をはじめとする東北産品などに風評被害が及べばどうなるか。困難な状況にあつて、それでも復興にかける東北の人々を打ちのめすことになる。社説で取り上げた朝日新聞の良識を評価したい。復興を願う多くの人に支持される正論ではないでしょうか。

行方不明者の捜索活動は冬に向かって、必死の努力にかかわらず、ますます困難をきわめるだろう。まだまだ東北地方には理不尽にも生身の絆を断ち切られた無念な魂が、大切な人、かけがえの無い人々を失った生者の悲しみが満ちている。

花火、それは滅びの美、消滅したものへの鎮魂一。

最後にやはり新聞「花火慰霊と鎮魂のため打ち上げ」で取り上げられていた句と詩でこの稿を締めくくります。

間断の音なき空に星花火

俳優の故夏目雅子さんが27歳で早世する直前、病室で作家の夫に抱かかえられなが

ら東京・神宮の花火をみて詠んだ句。
花火のようにきえました
花火のようにうつつなう
はかなく消える恋でした
大正ロマンの画家竹久夢二の「花火」と題した詩。



ひまわりの花スターメイン



桜花にスターメイン・尺球

花火大会で必ずプログラムにあるのが「スターメイン」(連続発射打ち)です。「スターメイン」とは、筒をたくさん並べてその中に1ないし2個の玉を入れ、導火線と速火線を用いて順番に多くの玉を打ち上げる方式です。

2013年目標 富士山・鎌倉 世界遺産正式に推薦へ

9月22日、政府は世界遺産条約関係省庁連絡会議を開き、ユネスコ・世界遺産の文化遺産への2013年の登録をめざし、文化庁が暫定リスト12件から選んだ「富士山」(静岡、山梨)、「武家の古都・鎌倉」(神奈川)の2件を正式に推薦することを承認した。文化遺産2件の推薦は、世界遺産委員会が、同委への各国からの推薦を14年登録分から2件推薦するときは、1件は自然遺産か文化的景観にする方針を決めたため、候補リスト「暫定一覧表」12件のうちの2件を13年登録に間に合うよう駆け込む形で推薦する形となった。

「富士山」は登山道や山麓にある神社などを含む「富士山域」、八つの湧水池から成る忍野八海、富士五湖など25の資産で構成。「鎌倉」は鶴岡八幡宮や鎌倉大仏、名越切通など10の資産で構成されている。富士山は、生態

系や地形などの「自然遺産」への登録をめざしてきたが、建造物や遺跡などの「文化遺産」への登録に転換したといういきさつがある。山が「信仰の対象」で、美しい景観が浮世絵に描かれるなど「芸術の源泉」になったことを訴える。鎌倉は姫治城や彦根城、「古都京都」、などと並んで1992年にいち早く文化庁の暫定リストに登録されたが、国から正式な推薦を受けられないまま、京都や奈良だけでなく、原爆ドーム(広島)や石見銀山遺跡(島根県)、平泉(岩手県)にも先を越された。「古都鎌倉」を「武家の古都鎌倉」と言い換える戦略にあらため、「サムライ」の街であることを強調。09年からは海外の有識者を招いた国際会議を繰り返し、ユネスコが重視する独自性と「普遍的な価値」をアピールしてようやく国内候補として認められ、ようやくのスタートと言える。

今後の行方だが、9月30日までに暫定版推薦書を、来年2月1日までに正式版推薦書をユネスコ世界遺産センターに提出、委員会は

12年から専門家で作る評価機関「イコモス」などに諮問。イコモスなどは現地調査などをして、登録すべきかどうかを4段階評価で勧告する。これを踏まえ、委員会が登録の可否を最終判断する。世界遺産は現在936件(うち文化遺産726件)と膨れ上がっており、審査は年々厳格化、今年登録された平泉も一度、落選の憂き目を見ており、富士山、鎌倉がすんなり世界遺産にみとめられるかは不透明で、登録が決まるのは早くても13年という。

メディア情報(朝日新聞 2011年7月25日、9月1日、9月19日、9月22日)



河口湖からの富士山

富士五湖(ふじごこ)の一つである河口湖からの富士山、美しい均整のとれたすそ野の広がりを見ることができます。富士五湖の原型は約1万5000年前の古富士山の噴火によってできた火山性陥没地に水が流れ込み形成されました。その後の噴火で湖の数や形が変化し、9世紀には現在の富士五湖の姿になりました。



鎌倉の大仏

「鎌倉の大仏」と親しまれている大仏、浄土宗大異山高徳院清浄泉寺の本尊(阿弥陀如来坐像)です。1243年(建長4年)、5年の歳月をかけて鎌倉政権と東国住民の守護仏として作られました。当初は木造でしたが台風で倒壊したことから青銅の鑄造で作られました。その後、大仏殿が洪水で流されたため露座のままになっています。

ユネスコ世界遺産 豆知識

■ 国内世界遺産(16)

知床／白神山地／平泉－仏国土を表す建築・庭園・遺跡群／日光の社寺／白川郷・五箇山の合掌造り集落／古都京都の文化財／古都奈良の文化財／法隆寺地域の仏教建造物／紀伊山地の霊場と参詣道／姫路城／石見銀山遺跡とその文化的景観／広島市の平和記念碑(原爆ドーム)／厳島神社／屋久島／小笠原諸島／琉球王国のグスク及び関連遺跡群

■ 国内暫定リスト(12)

北海道・北東北の縄文遺跡／佐渡鉱山の遺産群／富岡製糸場と絹産業遺産／国立西洋美術館本館／武家の古都・鎌倉／富士山／彦根城／飛鳥・藤原の宮都と関連資産群／百舌鳥・古市古墳群／宗像・沖ノ島と関連遺産群／長崎の教会群とキリスト教関連遺産／九州・山口の近代化産業遺産

[※日本にあるユネスコ世界遺産／国内暫定リスト](#)